



愛媛県移住ポータルサイト「えひめ移住ネット」

さらに、東京に常駐している移住コンシェルジュとともに「えひめ移住コンシェルジュ Facebook ページ」をほぼ毎日更新している。「えひめ暮らし」パンフレットや「えひめ移住ネット」とは違い、リアルタイムな生の情報を発信できるメディアとして活用している（令和4年2月時点で2025フォロワー）。



Facebook ページ「えひめ移住コンシェルジュ」

### 3 愛媛県単独の移住イベント

平成27年度あたりから、愛あるえひめ暮らしフェア、えひめ職の担い手フェアなど、愛媛県単独の対面式移住フェアを東京・大阪を中心に数多

く開催した。先輩移住者による講演、各市町や就職・就農などの専門機関がブースを構える移住個別相談、といったプログラムが中心となるが、地域の産品販売や会場内でのみかんジュース蛇口の設置など、様々な工夫を重ねイベントを盛り上げた。愛媛県単独移住フェアの開催により、移住検討者と直接接点をもつ機会が増えていき、移住候補地としての愛媛県の認知度も上がっていった。平成29年度からは、愛あるえひめ暮らしフェアを東京・大阪あわせて年間8回の開催が定着し、令和元年度の平均来場者数は、東京で約100名、大阪で約60名と他県にも引けを取らない集客数を確保できるようになった。

また、平成30年度には、愛媛県内20市町が相談ブースを構える大規模移住フェア「あのこの愛媛移住フェア」がスタートした。愛媛県の求人・移住情報サイト「あのこの愛媛」に求人募集を掲載している一般企業も出展し、移住をする上で課題となる仕事情報を提供する場となった。また、地域おこし協力隊募集説明会も同フェア内に開催。県内の地域おこし協力隊員が増えていく中で、各市町のPRも白熱した。そして、令和元年度、東京交通会館で開催した「あのこの愛媛移住フェア」は、200名を超える来場者となり、愛媛県の単独移住イベントでは過去最高の集客を記録した。

順調であった愛媛県の対面式移住イベントであったが、新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度以降の対面式移住フェアは中止を余儀



ふるさと回帰フェア